

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



気まぐれフォト！

年長さんのパラシュート作り。用意した素材を思わぬ使い方で利用している！この柔軟な発想には脱帽！



年中さんは、「指絵の具」の感触を楽しんでいる！大人が真似できないこの大胆な経験は、大いに芸術的センスを育むのです！



ひまわりの芽は「育ち」の芽

年中さんは、毎年ヒマワリを植えています。「芽が出たね！」「新しい葉っぱは形がちがうね！」「背の高さが手首のところを超したね！」などと、ヒマワリの生長を楽しみに、親子で会話しながら育てて頂くことがねらいです。そして、年長で自力で育てることに向かいます。

ある日のこと、登園すると荷物を背負ったまま黙って水を与えている子がいました。見るとまだ本葉が出たばかりで、みんなよりもとても小さいヒマワリです。この子はどんな思いで水をやっているのでしょうか。ちょっと想像してみてください。

今、この子を「かわいそう」と思われた方に伝えたいことがあります。この場面こそが、この子の「育ち」を促す好機です。思うように行かないことを身をもって知ること、それでも自分に何ができるのかを考えて自ら行動すること。これからの教育の肝はこれに尽きると言っても過言ではありません。芽が出ない！病気や虫にやられた！などと命を守り育てることは容易ではないのです。

しかし、ここで安易に大人が手を出してしまっただけでは、子どもの「育ち」の好機を捨てることになってしまいます。勿体ないことです。かといって突き放すのも違います。こういう場面では、是非一緒に考えて下さい。できるだけ色々な方法を一緒に捜して下さい。そして子どもにも決めさせて下さい。あとは励まして下さい。たとえ人のヒマワリより生長が遅くとも、大切に育てれば、最後は美しい花が咲くこと、そして、生きているものは、その成長を他と比較すべきではないことを、ヒマワリは子どもたちに教えてくれることでしょ。



純白のマグノリア

「泰山木 朝より花を開きゆく 徹しき雨に入り江暗みて」

泰山木は、列名マグノリアというらしい。国語の授業で習った記憶を辿るとこの一首に再会した。暗い入り江をバックにマグノリアの白い花が浮かび上がる情景は一幅の日本画のようである。園庭の樹木には、一つ一つに植えられた理由があるのだと言う。さてマグノリアの理由は？



手洗いの大切さを学んだよ！

春から夏にかけて、細菌による感染症が流行し、免疫力の弱い幼児やお年寄りが感染すると重症化する症例もあります。これを防ぐためには感染経路を断つという意味の「手洗い」がとても有効です。ただし、その手洗いにも、正しい方法があります。附属四校園は、本園の学校薬剤師の伊藤先生がもう十年以上前から子どもたちに手洗いの指導に来て下さっています。

目に見えない細菌や汚れを落とすと言っても、子どもたちはピンと来ません。そこで、可視化するために、汚れに反応する透明の液を手に塗って、ライトに当てると青白く光り、しっかりと正しく洗い流してもう一度当てると、光らなくなるといって一連の体験をさせて下さいました。手洗いを「手遊び歌」にしたものもあり、小さな子どもが覚えやすく忘れにくいよう工夫されていきました。お家でも「手洗い」の励行をお願いします。

